

「がん進展制御研究所セミナー」を開催

2024年7月1日

7月1日（月）、金沢大学がん進展制御研究所において、東北大学大学院医学系研究科抗体創薬学分野 加藤幸成先生による、がん進展制御研究所セミナーを開催しました。

がん細胞表面にのみ選択的に発現される分子種は、がん治療における標的になりますが、実際にはそのような分子は見出されていませんでした。加藤先生はタンパク質の3-D構造や糖鎖の違いなど、微細な差を見分ける超高性能モノクローナル抗体を戦略的に取得する方法（CasMab法）を立ち上げました。本講演では、CasMab取得のポイント、CasMabがどのような仕組みでがん特異的な分子を認識するのか、CasMabによるがん治療への展開をお話しいただきました。とりわけ、同一の分子といえども、正常細胞に発現される分子を認識せずに、がん細胞に発現されている分子のみを選択的に認識するCasMab抗体が取得できること、さらに、その抗体ががん細胞の分子を認識する仕組みについて、従来の理解では及ばないメカニズムも紹介されました。セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等約30名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



CasMab法を基盤とした がん特異的抗体の臨床開発

講演者： 東北大学大学院医学系研究科
抗体創薬学分野

加藤 幸成 先生

日時：2024年7月1日（月）17：00～18：00

場所：金沢大学がん進展制御研究所 4階会議室

がん細胞表面にのみ選択的に発現される分子種は、がん治療における標的になりますが、実際にはそのような分子はほとんど見出されていませんでした。加藤先生はタンパク質の3-D構造や糖鎖の違いなど、微細な差を見分ける超高性能モノクローナル抗体を戦略的に取得する方法（CasMab法）を立ち上げました。これにより、がん細胞のみを特異的に標的とする治療に応用することができます。本講演では、CasMab取得のポイント、CasMabがどのような仕組みでがん特異的な分子を認識するのか、今後のCasMabによるがん治療への展開をお話しいたします。

連絡先：松本邦夫（がん進展制御研究所：内線6745）